



### 大湊分団が優勝



消防団員の親睦を深めることを目的とした第2回市消防団員親睦ソフトボール大会が、5月14日、香長中学校北側グラウンドで行われました。

この試合は、トーナメント方式で行われ、11チームで熱戦、結局大湊分団が東部分団を破り優勝しました。

1回戦・南海13-11日章、大湊13-3大森、東部28-3上倉、岡豊32-0西部

準々決勝・香南12-4南海、大湊4-3琴平、東部(不戦勝)後免、北部6-5岡豊

準決勝・大湊12-2香南、東部12-4北部

3位決定戦・香南15-2北部  
決勝・東部1003000 | 4  
大湊305465x | 23

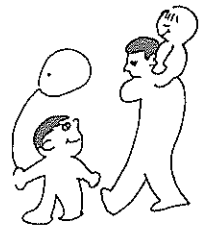


### 青年リーダー育成の研修会

市内の各地区青年の相互交流と青春時代の充実感、青春の意味、社会への目的等を考え、青年団リーダーとして地域での青年活動のあるべき方向をさぐることを目的とした市青年リーダー育成研修会が、5月13、14日と県立石山青年の家で行われました。

高山つつじの咲く環境のもとに市内の青年男女約50名が参加して、グループによる「計画と立案」の実習とその発表など青年団活動の学習をし、またレクリエーションや屋外研修(登山)でお互いの親睦を深め、楽しみました。

### 市民のひろは



ご家庭で話し合ってから読んでください。答えは今月号の広報に出ています。  
■もんだい・市内の小学校六年生では一人あたり〇本近くのむし歯を持つことがわかっていました。  
■しめきり・六月十五日(木)おくり先・〒783 南国市大湊中2301 南国市役所内 広報委員会 親子クイズ係  
■答えのハガキには必ずお歳・職業・住所を書いてください。

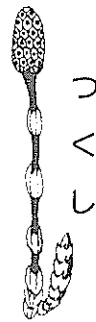
### 南国俳壇

山菜を取りたる向う娘はひとり  
れんげ摘みつつ草笛吹きたり  
大湊 伊藤誠子  
五月雨の深夜ニュースに浮びたる  
成田の画像怪しげにゆれ  
領石 唐岩 勇  
花嫁の花束持ちてあでやかに  
姑と呼ばれし人に近づく  
立田 北村幸江  
救急車に乗りたる気持の憂うつさ  
夜の静けさを破りて走る  
里改田 楠瀬米井  
下町のドラマ映れば生いたちし  
吾も東京の日日思いつ  
(おていちゃんを見て)  
後免町 刈谷益子

### 南国歌壇

葉さくらや嬰兒の喉かわかわと  
遠吠農婦の履歴賞罰なく  
植田 植田 八重  
白足袋の哀しみを知る柿若菜  
耕機機過ぎ舗装路に光る泥  
浜田 浜田 由  
月光の積りし夜半のハウス群  
植田 植田 弘子  
医学部に無数のボンベ 青葉 藤  
葬儀いっさい他人が仕切る 牡丹の芽  
室生 鉄

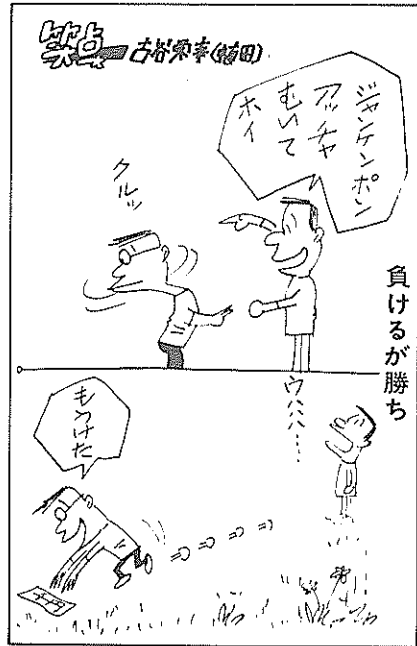
### 初恋バンザイ



長男の卒業式を翌日にしたある日のこと。四年になる二男が学校から帰ってくるなり、「お母さん、あしたの卒業式はいきとうない」と言いだした。不審に思っ、「お兄ちゃんの卒業式はA君も一生懸命六年生を送る言葉の練習をしたのどうして？」と聞いてみると、「六年生のM子ちゃん卒業するから泣きそうになって困る」とのこと。「なんで又、「どうしてか知らんけど、ひっそり涙が出てきそうになる」との返事。「A君それはもしかして初恋かもしれんねえ。」

「お母さんも初恋をしたことがある？」「そりや勿論！」「どんなになった？」「そうやねえ、何となくその人のことが気になるので、その人が近くにいて胸がドキドキして話をするのがはずかしかった。」「ふーん何年の時？」「中学一年位やったらうか。」「ほんなら僕の方がお母さんより早いやい。」「そうよ、四年で初恋を経験して、お母さんよりA君の方がすんじゆうねえ。そんな会話を繰返しながらも卒業式は無事終了した。その後二男が五年になってま

### 立田天神さまの梅



菅原道真は平安時代中期の有名な学者であり、また偉大な政治家でもあった。藤原氏全盛の時代に道真は右大臣に任命されたが、反

■しようひん・特賞千円 三人、残念賞(記念品) 五人  
■第八十回正解発表  
■こたえ・①②③④⑤  
■特賞・千円 三人  
■竹村 誠賢くん(植田)  
■大和田 哲彦くん(植田)  
■森本 多喜子さん(岡豊)  
■残念賞・記念品 五人  
■和田 晋(物部)松岡賢一(稲生)  
■内田 佳子(下野田) 吉村 義文(中ノ川) 橋村 隆志(岡豊) これからもご協力ご応募ください。

して来国、潮江の高見に住んだ。そこで道真の死後、老臣の松本春彦らが遺品の衣や剣、観音仏をもつて土佐を訪ねた。そして、潮江と目と原の間にある大津まで来た時、病気になる死んだ。村人らはその死を悲しみ、遺品を奉じて高見のもとに届けた。これが、潮江天満宮のご神体になっているとい

人の手厚い看病も申妻なく、ついに帰らぬ人となった。村の人々は深くその死をいたみ、社地をつくり、祠をたてて、白梅をご神体がわりに道真およびその乳母の霊をなぐさめた。これが立田の天神さまの起りだと伝えられている。当時の梅はもうすでになく、その後幾代目かの梅が、来る年ごとに花を咲かせて、文神菅原道真と忠実な乳母の美しい物語りを今に伝えている。境内には、樟や杉の太木が茂り神々しい神域を作っている。

もなく、「お母さん僕又初恋をしたにかあらん。」「まあ又かね、どうした？」「今日転校生があつてねえ、その人を見たらドキドキとした。この調子なら卒業するまでに何回初恋をするのやら。」何はともあれ初恋、バンザイである。

はつきりした意味もわからないうままに私に訴えて来る二男を見てると、私も遠い昔の事がなつかしく想い出されて思わず顔がほころんだ。今のところ無邪気に「〇さんが好き。」「××さんが好き。」と私に言ってくるのだが、あと十数年もたれば「この人と結婚します。」なんて突然言われて、「こんな筈ではなかったに。」なんて事にならないだろうか。その息子は今中一、兄と二人でお互いの顔のニキビを見ながら、「想われニキビだ。」やれ「フラレニキビだ。」などと言い合っている。私も仲間になりながら今一度「A君、本当の初恋はまだか。」と問うてみた。

古谷紀代(立田)

